

## 自立した大人へ



東高木 久保田 大貴

私が親元を離れ大学生として日々を過ごす中で気付いたことがあります。それは「自分がこれまでどれだけ両親に支えられ、見守られ過ぎてきたか」ということです。

大学生になり一人暮らしを始めてこれまでやってこなかった家事の大変さを知り、アルバイトを通じて働くことの辛さを知りました。そして何より、自分のことは全て自分で管理し責任を取らなければいけないことの厳しさを知りました。それまでは自分のことを常に見守っていてくれる人がいたので、無茶をしても安心して前に進んで行けましたが、一人暮らしの大学生活では自分の行動の責任は全て自分が持たなければなりません。それを常に自覚し毎日を送っているかは、正直言って今は自信がありません。しかしそんな生活の中でようやく、自分が両親にこれまでずっと支えられてきたことを自覚できました。両親には改めて感謝したいと思います。

私も今年成人となるわけですが、一人前の大人として成長するためには、これまで以上に多くのことを経験する必要がありますと考えています。最近の厳しい情勢の中で、大人としての第一歩を踏み出す私たちは、失敗や挫折を恐れず色々なことに挑戦し一步一步前に進んでいかなければなりません。そしていつか自分も社会の一員として、誰かを支えられる自立した一人前の大人として両親の前に立てるようにになりたいと思います。

## 感謝の想いとともに



社東町 長田 夏奈

二十歳を迎え、今ふりかえってみれば、私は多くの人に支えられて生きているのだということを実感します。

大学生になり、学校生活やサークル、バイト、他にも様々な活動に取り組んでいるところですが、それぞれの場所での人との出会いから学ぶこと、考えることは多く、それが自分の成長への大きな糧になっているように思います。困ったときに力になってくれる信頼のおける友達が身近にいることもとても幸せなことです。そして、今こうして様々なことを学び、充実した日々を送れているのは、支えてくれる両親がいるからです。離れていても、いつも気にかけて心配してくれたり、応援してくれたりすることが、私にとって大きな励みになっており、とても感謝しています。たくさんの人に支えられてきた分、今度は自分が多くの人の支えになることが、二十歳を迎える私の一つの目標です。

今の私はまだまだ未熟で学んでいかなければならないことはたくさんあり、これから様々な困難にも直面するだろうと思います。立派な一人の人間になるということは、きつそうだがやさしいことではありません。それでも、周りへの感謝の気持ちを忘れずに、大人になるという自覚と責任を持ち、日々の経験から様々なことを吸収しながら、一歩ずつ大人に近づいていきたいと思っています。

## ~成人を迎えた私の決意~

# 大人への第一歩

## 目標をもつて



東町 久保田 黄

私は今年から、富士見町のある病院で働いており、初めて味わうことばかりを経験しています。一人暮らし、お金をもらうということ、仕事場での人間関係など。

今までは親が掃除、洗濯、炊事、金銭関係のすべてをやってくれていましたが、今は自分一人でやらなければならなくなり、自分がどれだけ親に頼ってきたのかを痛感しました。それと同時に、親の支えがあったからこそここまでこれたのだと思います。普段は感謝の言葉なんて恥ずかしくて言えませんが、「ありがとう」と言いたいです。

新成人となり、もうすでに社会の一員として働いている人もいれば、もう少し勉強をして数年後社会に入る人もいます。どちらにも言えることは、目標を持って生きていくことだと思います。自分はこうなりたい、こうしたいという目標があれば、挫折を経験しても立ち上がって頑張っていけると思います。

社会に出れば、人が全て教えてくれるのではなく、人の行動を見て自ら学ばなければならぬことも多くあると思います。人間としても社会人としても大きくなるように生きていきたいです。



## 人との出会いを大切に



大門 竹前 千春

二十歳の節目を迎え、これまでの日々を思い返すようになりました。私は今、県内の大学に通い、とても充実した毎日を送っています。しかしこの今があるのは、これまで私を支えて下さった多くの方の存在があるからだと感じています。

私は高校時代、養蜂部に所属していました。ニホンミツバチを学校で飼育しながら、ミツバチを活かして地域を元気にしようと思つくりの活動を行い、その中で地域の方など多くの方との出会いを重ねてきました。活動を共にしながらその人たちの温かさに触れ、常に支えられて活動できているのだと日々感じていたものです。そして、この支えが私の成長や自信につながり、夢を見つけることもでき、今の大学生活に至っています。また、何より忘れてはいけないのが父と母への思いです。親元を離れて暮らす今、「自立」というものが少しずつわかってきたと同時に、家族の有難味や存在の大きさを感ずるようになりました。二十年間いつもそばで見守ってくれた父と母には、感謝の気持ちでいっぱいです。

これから先、新たな出会いが待ち受けていると思います。その出会いを大切に、そして多くの人に学びながら、社会人として自分はどうあるべきかを考え、何事にも一生懸命でありたいと思っています。また、いつまでも目標や夢を持つことを忘れずに、一日一日を過ごしていきたいです。